May 2015 subject reports

Japanese ab initio

Overall grade boundaries

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 14	15 - 28	29 - 44	45 - 58	59 - 70	71 - 84	85 - 100

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 3	4 - 7	8 - 11	12 - 15	16 - 18	19 - 21	22 - 25

提出された成果物の特徴および適切さ

パート１とパート３では、比較的多数の受験者が緊張する事なく自信を持って臨んでいた印象を受けた。パート１はレコーディングをする前に様々な絵や写真の説明や描写等の練習をする事でその手順に慣れていたのだろう。パート３の WA に関する質問は、受験者が書き上げた後にレコーディングがされるので、大多数の者が答える事ができていた。また、普段から教員との日常会話等の練習を重ねているのでその後の質問にもストレスを感じる事なく回答している受験者が多かった。

レコーディングで最も難しかったのは初見の VS に基づいた質問がされるパート２であろう。他のパートよりも受験者が緊張する傾向があった。質問文の中にある「いつ」「どこ」「誰」「何」「どんな」等のキーワードを聞き逃している受験者が多数いた。その結果、求められている情報が回答の中に含まれていないケースが多々あった。また、される質問と自身の回答の内容に注意を払い過ぎると、助詞の使い方や発言の際のイントネーションに間違いが多くなる傾向があった。

はきはきとした話し方をする受験者は明らかにモチベーションが高く、日本語に対するランゲージバリアが低い印象を受けた。その理由の１つに教員が果たしている役割が挙げられよう。受験者が能力を余す事なく出せるようにその場の雰囲気に気を配る教員によるレコーディングでそのような受験者が多い傾向があった。

評価規準に基づく受験者の到達度

評価規準 A では受験者が高得点を取る事が難しい傾向があった。教員のサポートがなければ簡単な文でも満足に発言できない受験者がいた。受験者は発言する際に「です」「ます」等の表現に終始するのではなく、表現の幅を広げる為に様々な文法を使う事が望ましい。その一方で、変化に富んだ語彙や表現技法を使ってもそれらが受験者の発言の中で正しく使われていないケースがあった。また、受験者のイントネーションが正しくないケースも多数あった。教員はインターネット等様々なマテリアルを上手く使い継続的にそれらに取り組む必要があるであろう。

評価規準 B では大多数の受験者がスムーズに教員とのコミュニケーションを取れていた。特に受験者がリラックスしているレコーディングでは、教員がする質問を理解し、回答の中で事細かな情報を豊かな表現でするケースが多くあった。一般的に、受験者の聞き取り能力は高く、会話のキャッチボールができている印象を受けた。それ故に質問の内容に合った回答が殆どであった。しかし、教員は異なるトピックに基づいた簡単な質問を多くするのではなく、会話の質を高める事が望まれる。その一方で、質問が長過ぎたり難し過ぎたりする為に、教員がそれらを言い換えても受験者が理解し回答できないものもあった。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

パート１では、受験者の発言内容の質を向上させる為に、普段から日本とその文化に関連した様々な絵や写真について叙述する練習をする事が望まれる。例えば、「いつ」「どこ」「誰」「何」「どんな」等について言及する事ができれば、表現の幅を比較的容易に広げる事ができよう。レコーディングが始まる前の準備時間の使い方の練習を複数回しておくと、特にこのパートでの受験者の緊張を和らげる効果があるであろう。パート２では、パート１での情報に基づいた質問に対して十分に答えられないケースが多くあった。授業で質疑応答の練習をする際に、「そして」「また」等もう一歩踏み込んだ内容も合わせて受験者に発言させる方法も有効であろう。パート３では、受験者 は質問に対して複雑な回答を避ける傾向が少なからずあった。受験者が自信を持ち満足できる表現をできるように「なぜなら」等と発言を続けさせる練習も効果があるであろう。

レコーディング中に受験者が自信を持ち生き生きと楽しそうに発言する理由の１つは、彼等が高いモチベーションを維持できるようにする教員の日々の努力が大きく作用していると思われる。レコーディング中に教員が作り出す良い雰囲気は、受験者の成績と関連がある印象を受けた。その一方で、レコーディング中に日本語ではない言語を話す受験者が例年よりも多い傾向があった。会話練習時に受験者が持つ日本語に対する苦手意識を減らす創意工夫をする事で、彼等が日本語での会話を継続してできるように指導する必要があろう。

緊張している為か受験者が比較的簡単な発言をする傾向があるので、教員は幅広い語句や表現等の使い方を生徒に習得させる事が望まれる。また、一問一答形式の質問をするよりも会話の内容を自然にし、また深くする事が期待される。その際に、受験者が自身の発言内容をより充実したものとする為には、社会文化的能力及び社会言語的能力を習得する事も必要になるであろう。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

Standard level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 3	4 - 6	7 - 9	10 - 12	13 - 14	15 - 17	18 - 20

提出された成果物の特徴および適切さ

全体的によくできていた。トピックの選び方がより的確で、求められている情報の書き方についての理解がより進んでいる。しかし、今年は Reflection 意見の部分が、重視された得点配分に変ったので、生徒はリサーチを通してより深く考えてまとめないと、高得点につながらない。

評価規準に基づく受験者の到達度

A. Description：説明

前回同様、日本に関する情報を述べるかわりに、「トピックを選んだ理由」や「トピックの提示」に終わってしまうケースがあった。ここに何を書くか、しっかりと理解しておくことが大切である。

B. Comparison：比較

二つの文化の似ている点とちがう点について、よく比較できていた。前半に日本について述べて、後半に自分の国ではどうか、二つのまとまりに分けて書いているケースが多かった。ちがいを三つ以上見つけて書いている作品も多かった。ただ、700 字という字数の制限があるので、ここでくわしく書きすぎないように注意する必要がある。

C. Reflection, Question 1：意見　おどろきや発見

Criteria C、D、E は、最も重視される部分である。説明が簡単であったり、一文しか書けていない場合は、得点は低い。「びっくりしました」「初めて知りました」の表現を使って、効果的に説明している生徒が多かった。

D. Reflection, Question 2：背景にある理由

単に「両国はアジアにあるから」「歴史がちがうから」のような説明では、理由にならない。表面的な分析ではなく、その習慣がなぜにているか、あるいはちがうのか、深く考えることが必要である。

E. Reflection, Question 3：日本人ならどう思うか

日本人ならどう思うか、説明する必要がある。すでに述べた文章をくり返したり、単に言いかえただけでは、得点にならない。「日本人は、このことについておどろくと思います」「めずらしいと思うでしょう」のような表現を使って、効果的にまとめることが大切である。そのためには、リサーチを通して、発見したりおどろいたことをもとにして、考えを深めていくとよい。

F. Language：言語

基本文型を使ってまとめていた。手書きでなくなったため、使っている漢字のレベルが上がった。しかし、誤字脱字や文法のミスがないように、ていねいに文章を書くことが大切である。

G. Formal requirements：必須事項

文献リスト

参考文献リストには、ウェブサイトのタイトルと URL は不可欠。アクセスした日づけも記録しておきたい。

添付した資料

ab initio レベルをはるかに超えたものが目立つ。日本語の資料が一つは必要である。資料のページが多い場合は、作品に関係したページを添付するとよい。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 比較しやすく、資料が集めやすいトピックを選択することが大切である。
- 求められている情報が何かを理解し、比較したり、説明したりする練習をするとよい。

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 5	6 - 10	11 - 16	17 - 22	23 - 27	28 - 33	34 - 40

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

Text A

Q1 「男女五人ずつ」の「ずつ」を見落としてしまい、「五人」を選ぶ生徒が多かった。

Q3, 4 受験者は、「簡単、もらう」といった語彙が、よく分かっていないようだ。

Q7, 8 旅行に関係した語彙が、定着していない。

Text B

Q13, 14, 15 同じ意味の語彙を見つけるのが、難しかったようだ。

Q18 質問の意味が、正しく理解できていなかった。

Text C

Q20 - 23　その文章が正しいかどうかを見分けて、その理由を書く問題が苦手である。理由になる部分を正しく書けていても、正誤のティックをつけるのが逆になっているケースが目立った。

Q27　理由を本文から見つけて、必要な部分を書きぬくことができなかった。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

Q9, 10, 17 のように、やさしい語彙の問題は、よくできていた。

Q15, 20, 33 のように、数字や月、年のように基本的な漢字は、かなりよく練習できていた。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

Text A

Q1　質問は簡単だが「ずつ」という語彙を見落としたために、間違いが多かった。

Q5-8　基本の文型が、定着していない。「（だれ）と行きます、（何に）乗ります」のように、助詞の使い方をしっかり練習する必要がある。

また、旅行に関係した語彙（例えば二泊三日、シングル、ツイン）が、おさえられていなかった。

Q9 ,10　「どこ」「何いろ」という質問を、しっかり理解できて、正しく答えられていた。

Text B

Q11　「あきます、しまります」の語彙が、難しかったようだ。

Q12　多い、少ないという形容詞の理解と、比較の文型に慣れておくことが必要。

Q13, 14, 16　一般的に苦手とする問題。「とめる、おく」の語彙が定着していないようだ。

Q15　よくできていた。年、月という漢字に慣れている。

Q17　一階に何があるのかを答える問題だが、一階でできることを書いた生徒が多かった。質問をよく読むことが大切。「何があるか、何ができるか」のちがいを理解しておく必要がある。

Q18　「ツタヤ図書館でしかできないこと」を書くべきなのに、ふつうの図書館でできる「読書」や「勉強」と答えた生徒が多かった。「ふつうの図書館とちがいます」という文を理解できなかったようだ。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

Text C

Q19　ほぼよく答えられていた。全問正解、または 2 問正解の場合が多かった。

Q20-23 「より」を使った比較の文型に慣れていないと、正しく答えられない。理由が正しく書けていても、ティックのつけ方が逆になっていて得点できなかった生徒が目立ち、残念である。「みじかい」「安い」の形容詞と「聞く前に、聞いてから、聞いた後で」をしっかり練習しておくことが必要である。

Q24-26　できる生徒は全問、正解できた。

Q27 「どうして」と理由の「から」をセットで練習しておく必要がある。「ふつう電車に乗ります」と答えた生徒が多かった。

Q28 「東京駅」「ふつう電車で」「一日旅」の三つのキーワードが全部書けていないと得点にならない。質問の答えになる部分を本文から見つけ出す練習が必要である。

Text D

Q29-32 「どうして、どうやって、どんなこと」という部分が理解できた生徒は、正しく答えられた。

Q33-35　見つける言葉はひとことで よいのに、長く書き過ぎている間違いが目立った。どこがキーワードになるのか、理解できていないようだ。長く書き過ぎると、文法的にあてはまらない。

Q36　よくできていた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 過去の試験用紙を使って練習しておく。質問の答え方に慣れておくことが大切。何が問われているか、どのように答えればよいのか、毎年出る典型的な設問の答え方は事前に練習しておく。
- 「何、どこ、どうして」の疑問詞に注意して答える練習をする。
- 数字と形容詞に使われる漢字を練習しておく。
- 基本語彙を練習する。「やさしい、むずかしい」「安い、高い」のように反対語をペアにして覚える。
- 基本文型を練習する。特に助詞と動詞をセットにして、基本文を覚える。
- 書き間違った解答を直す時は、書いた答えがはっきりと分かるように書くこと。どちらが答えか分からない場合や判読できない場合は、得点にならない。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 12	13 - 15	16 - 18	19 - 21	22 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

- 質問されている内容が理解できていなかった。
- ブログはどんなフォーマットで書けばよいか、理解できていなかった。
- 形容詞の過去形と、二つの形容詞のつなぎが難しいようだ。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

- セクション A は、一般的によくできていた。特にメールの書き方に慣れている。
- 基本的な語彙と文型が使えていた。できる生徒は、「と思います、ので、(理由の)から、ながら、…たいです」のように多様な文型が使えていた。
- タスクで求められている情報の半分は、ほぼ答えられていた。

設問ごとの解答結果（強みや弱点)

Section A

Q1　友だちをりょうりコースにさそうメールを書く問題。ほとんどの生徒はタスクを理解できていて、いつ、どこで、どんなりょうりを作るか、書けていた。しかし、コースがいくらか書けていないケースがあった。また、「何が楽しいか」を説明するのが難しかったようだ。楽しいことを説明するためには、アイデアを広げる必要がある。できる生徒は、「りょうりした後で、みんなで食べることが楽しいです」のように、工夫して書けていた。

Q2　日本人学校の生徒たちが来た日について、ブログを書く問題。ほとんどの生徒が、いつ、どんなことをしたのか、説明できていた。しかし、その日よかった点を二つ書ききれなかった生徒や、おみやげについて全く書けていない生徒がいた。

ブログには、書き手の名前かペンネーム、タイトル、読み手を意識した書き始めと書き終わりの言葉が必要である。これらの中のどれか一つが入っていれば、セクション A の Criterion C（フォーマット）で 1 点とした。

Section B

Q3　日本の高校からとどいた DVD を見て、その学校の先生に手紙を書く問題。セクション B では、このタスクを選択する生徒が一番多かった。高校生活について、書き慣れているようだ。手紙の書き方もよく定着していた。「より」を使った比較の文型も、できる生徒は上手に使えていた。二つの学校のちがいについて説明するのに、制服や学校の大きさやクラブかつどうなど、うまくアイデアを広げていた。しかし、映画の DVD を見たとまちがった理解をしてしまったケースも目立った。

Q4　いなかから、大きな町にひっこして、町の生活について新聞記事を書く問題。どんな町で、そこにどんな物があるか、説明しただけでは、高得点は得られない。できる生徒は、いなかと町のちがいについて上手に比較して述べていた。よい点と悪い点を比較して説明するために、接続詞が効果的に使えるとよかった。

Q5　しゅみのウェブサイトを作るための話をする問題。セクション B の中で最も選択されなかった問題。できる生徒は、求められている情報の全てをうまく説明していた。アイデアを広げるのが上手な生徒は、例えば週末にみんなで集まって、写真をのせておもしろくすることを、説明していた。この問題は、質問を正しく理解するのが難しかったようだ。中には、自分のしゅみについて書いているだけのものもあった。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 手紙や新聞記事、メール、ブログ、スピーチ、日記と異なるテキストタイプで、フォーマットとして必須項目が何かを理解して、作文を書く練習をする。
- 多様な文型が使えるように練習する。例えば、「…した後で、(理由の)から、ので」のような表現が使えると、言語面で得点が高くなる。また、「そして、次に、それから」といった接続詞が使えるように練習をしておくとよい。
- 段落をとって構成を考えて書く練習をする。書き始めとしめくくりを工夫するとよい。例えば Q5 なら、最初に話し始めの言葉を言ってから、どんなウェブサイトにするか、みんなでどんなかつどうをするか、説明して、最後にしめくくりの言葉で終わるとよい。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional